不定期刊行　　第517号　2014.08.01

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者　大西　浩
大町高等学校

美しき心の目をもって山に登る

全校登山（7月16日から18日に実施）の準備をしている7月14日、長野市にお住まいでかねてよりお付き合いのあった視覚障碍者の大矢千秋さんから美ヶ原へ一緒に登ってもらえまいかというお誘いがあった。大矢さんとは前長山協会長の宮本さんと一緒に鹿島槍に登って以来のお付き合いがあるのだが、全く目が見えないというにも関わらずチャレンジ精神が旺盛なその前向きな姿勢には頭がさがる。偶然7月20日が一日だけ空いていたので、約束をしてその日を待った。せっかくの機会だからと生徒たちにも声をかけたのだが、さすがに全校登山の直後の週末ということや、野球部が勝ち進んでおりその日三回戦が行われることもあって、参加したいと意思表示したのは一年生のO女一人だった。以下は、その大矢さんに同行したOさんの感想である。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

今回の山行は美しき心の目を持つ盲目の登山愛好家大矢さんと美ヶ原へ行きました。

私はまず、「目が見えない」ということは、山行をするにあたって大きなハンデになるはずなのにどうしてアタックするのか不思議でたまりませんでした。中学の時に障碍者疑似体験をやったのですが、ほんの小さな段差でも怖かったし、信頼をしているはずの友達もどこか頼りなく感じたりして怖かった思い出があります。見慣れているはずの学校の中を歩くことさえ怖いのに、見ず知らずの土地へ行き、足場の不安定な道を行くのはきっと不安だろうなと思っていました。

大矢さんとは松本駅で合流しました。一人で電車に乗ってやってきた大矢さんはそれだけでかっこよく見えました。一見頑固そうなのですが、話してみるととても気さくな人で礼儀正しく優しかったです。

駅から山までは先生の車で行きました。途中から山道に入り、やがて牧場が見えてきてくると、すぐに一面の芝生と牛さんが姿を現しました。その様子を大矢さんに話すと、楽しそうに笑っていました。

三城牧場の駐車場で準備をし、さあ、山頂へ。山では手をつないで先導という訳にはいかないので、サポートをしてくれる人のザックにスリングとカラビナで作った持ち手をつなぎ、大矢さんは片手にはストック、もう一方の手はこの持ち手を握って歩いていきます。サポートをする人は、歩くためのガイドをします。このガイドは大矢さんの第2 の目になる大切な存在。大西先生がその役目を立派に勉めていてすごいなと思いました。表現力はもちろんすごいのですが、気遣いのできる優しさがすごくて大矢さんも言っていたように歩きやすいだろうなと思いました。

私は一番後ろからついていったのですが、大矢さんと歩いてみると意外と速いことにびっくりしました。「目、実は見えているんじゃ・・・？」と疑ってしまうほどに！なにより、完全に人を信頼していて自分から不安を取り除いているようですごかったです。それに大矢さんは山を楽しんでいました。私はいつもゴールすることに躍起になってい

ましたが、大矢さんは違います。鳥の声を聴いて、見えないはずの陽の光を感じ、緑の匂いをかいで自然を全身で受け止めていました。そんなことをもし山で求めているのだとしたら、ハンデがあっても行けるのだろうと大矢さんの気持ちがわかったような気がしました。

百曲りを登り切ると、さあ、山頂です。残念ながら曇りがちでしたが、下よりももっとたくさんの牛と美しい牧草地が私たちを迎えてくれました。美しの塔は本当にその場に合っていて作った人はすごいなと思いました。危険の少ない美ヶ原の台上では、先生に言われて私が先導役をしてみましたが、道の様子を伝えながら先導するというのは、見ている以上に大変なことでした。

下りは登りよりもきつそうでした。石も滑りやすくて足場が悪い上に、自分の体重が足にのしかかるからです。それでもすいすいと下っていく大矢さんとそれを先導しながらサポートしていく大西先生はすごいなと思いました。

私が感じた大矢さんの精神で、山を感じてみると、自然に胸がすく思いがするようで、本当に気持ちがよかったです。山の面白さがまた一つわかった山行でした。大矢さん、大西先生に感謝です。

全校登山で訪れた槍ヶ岳

全校登山が無事終わった。槍ヶ岳隊の隊長を務めた小生であったが、山岳部の生徒を連れて行くのとはまた違った感覚で、26 名の生徒とともに頂上に立った時には、普段の山行とはまた違った充実感を感じることができた。槍ヶ岳を目指す生徒たちは、モチベーションも高く、原則運動部にも所属している生徒たち。事前に人工岩場での訓練も義務付けているので、引率していても不安を感ずるような場面はなかったが、ともに引率した先生、さらにはＯＢの総合的なサポートで、生徒たちには素晴らしい経験を味わわせてあげることができた。

雷注意報も出る中、16 日の燕山荘から大天への稜線上は吹き飛ばされそうな強風、17 日大天荘を出発するときはその風に加えて雨も降る中、雨雲レーダーの予測と天気図を見て隊長として、ゴーサインを出した。結果的にはこの判断が見事に当たり、西岳を出て水俣乗越へ下ろうというまさにその時、初めて槍ヶ岳がその雄姿を現し、生徒たちのボルテージは一気に上がった。

そして、大町高校の集団だけで占有した槍ヶ岳の山頂。山頂に登ったときは再びガスがかかっていたが、ＯＢのＨさんらも一緒になって歌った伝統の「山岳部歌」は雲をも吹き飛ばし、それまで隠していた山々の姿をチラリと垣間見せてくれた。素晴らしい生徒たちの頑張りに山はいいなぁ・・・改めて思ったことだった。